

第53回 中国・四国地区子ども会育成研究協議会(山口大会)

第3分科会 「子ども会の安全普及啓発活動」

広島県子連専門委員長 杉原 潔

安全とは？

「危険がなく安心なこと。傷病などの生命にかかわる心配、物の盗難・破損などの心配のないこと。」・・・大辞泉

○ 子ども会における健康と安全の確保は、子ども会活動支援の基本

- ・身体的な面・・・小さな傷は、経験しなければいけない。
- ・精神的な面・・・精神的な傷も深いものになってはいけない。
- ・社会的な面・・・地域社会との関係など。

○ 健康面でタバコはどうでしょうか

喫煙による子どもへの健康被害・・・受動喫煙

**発達・発育障害、乳幼児突然死症候群（SIDS）、呼吸器疾患・呼吸機能の低下
アレルギー症状、免疫低下**

子ども会における危機管理の考え方

- ・子どもから様々な体験の機会が奪われている。
- ・基本的な身体の使い方、コミュニケーション能力、社会的適応力が育っていない。
- ・危機管理能力に問題が多く見受けられる。
- ・保護者の価値観の変化、小さな事故が大きな訴訟問題に発展するケースもある。

リスクとハザードの違い

リスク・・・自ら挑戦することでハザードを排除したり軽減できる。

ハザード・・・目に見えない隠れた重大な危険。

(子どもは気が付かないので大人が管理)

人間は間違える動物

4つの人間特性

- ・ 「 錯覚 」 ・ 「 不注意 」 ・ 「 省略 」 ・ 「 近道 」

錯覚 = わかっているつもりだったが

不注意 = ついボーッとしてしまった

省略 = 手を抜いたばかりに

近道 = 手っ取り早くすませようとして

子ども会 KYT はなぜ生まれたか！

- KYT とは何か・・・中央労働災害防止協会「ゼロ災害提唱」のノウハウがヒントになり、1980年代に子ども会活動取り入れられた。
- KYT が生まれた背景とは・・・安全を確保しつつ冒険に挑戦させる。
 - ① 尊い「犠牲」＝1976年8月津市の四葉子ども会の水死事故。
 - ② 子どもの危険回避能力の低下＝直接体験活動の減少。
 - ③ 指導者・育成者の危機意識の決如＝社会システムの大きな転換。
- 子ども会活動の危機予知のポイント
 - 1. 事故発生とその要因を考える。
 - ① 見える危険（環境要因）＝用具・場所など
 - ② 見えない危険（人的要因）＝資質・行動など
 - ③ 危険は隠れている 危険は動いている ＝ 動線・人間関係など
 - 2. 大事故には予兆がある ＝ H.ハインリッヒの法則



活動における危機回避の方法

1. 指導者としてすべきこと。

- ① セスメント(事前調査)の重要性＝活動場所の实地調査、指導者の力量・子どもや保護者の経験や力量を知る。
- ② 前・現場での情報共有の重要性＝指導者の役割分担の明確化各種記録シートの用意・記入で記録を残す。
- ③ 万一の時に備える準備の重要性＝事故発生時の救急体制の確立、傷害保険・損害賠償保険への加入。

2. 子どもの保護者にしておくべきこと。

- ① 子ども会への加入の確認＝保護者への説明による契約(同意書)。
- ② 子ども・保護者へインフォームドコンセント＝活動の事前オリエンテーション。
- ③ JL・子どもへの安全教育活動＝イメージできない危険を回避することは不可能

→ KYT の必要性

安全教育のサイクル

1. 子ども会 KYT を地域に広める＝学ぶことでまちに広がる危機管理意識。
2. 大人も子どもも共に学び、危機予知能力を高める＝体験学習が学びを深める。
3. 現場の活動のふりかえり＝安全教育への意識を根付かせる。

子ども会の KYT のすすめ方

- KYT は、基本 4 ステップを少人数で繰り返し反復する体験学習で学ぶ。

KYT シートを使う理由

- ・第 1 ステップ「危険の発見」 現状（危険な状況）の把握
危険を伴う活動 ＋ 不安定な状態、不安定行動 ＝ 事故
- ・第 2 ステップ「これがポイント」 重大危険と事故の絞り込み
- ・第 3 ステップ「あなたならどうする」 対策樹立 あなたができる現実的な対策は？
- ・第 4 ステップ「わたしたちはこうする」 行動目標 安全行動の共通理解と行動

○ KYT から KYK（危険予知活動）へ

= トレーニングからやる気の実践へ！

- ・指示者レベル
- ・チームレベル
- ・一人レベル

5 分間 KYT

活動現場で活動の直前に短時間（必ず 5 分間ではないが 10～15 分程度）で行う KYT
直前に実施することで、参加者全員が問題点を共有することができる。

始まる活動での危機管理の意識づくり。

活動の直前に質疑応答形式で実施する。

危険を発見して対策を考える。

① どこが危ないのか？

そうね。 ～が ～が ～になるね。

（指導者は具体的に指導する）

② それじゃ、どうしたらいいのかな？

～を ～する。

③ そうね。危なくないように ～したらいいね！

※ ①、②で、いくつも子どもたちに出させて、対策を考える。

※ その中で、みんなで必ず守ろうのスローガンを作る。

みんなで守れるかな？（必ず全員で確認する。）

④ リーダーの『みんなで守ろう！』の掛け声で、全員立って指さしして大きな声で

『～が ～だから ～しよう。 ヨシ！』

- ・グループ意識を高め、積極的危険回避力をつくる。
- ・参加者全員が危険予知を共有できる。
- ・活動前の危機管理の意識づくり。